



～二宮尊徳と蕨村のかかわり～

閩文化課（本庁3階） ☎22-0183

二宮尊徳（1787年～1856年）は、小田原藩（山形）に生まれ、江戸時代後期の天明・天保の大飢饉で疲弊した数多くの藩や村を、徹底した実践主義により復興させた農政家です。本市でも、天保の大飢饉（1830年代）などで苦しんでいた下館藩の財政再建や、各地の農村復興に尽力しました。

蕨村での報徳仕法は、村民の住居や寺院、灰小屋（肥料となる灰を入れておく建物）の修繕、小貝川の堤防の工事、荒地地の開墾を行うという事業内容でした。

下館藩領蕨村（現在の筑西市蕨）は、農村復興事業が行われた場所の一つです。嘉永5年（1852年）に下館藩では、報徳仕法を実施すべき村を投票で決める事になり、その結果、蕨村に最も票が集まりました。

また二宮尊徳は、鍬や鎌を支給し、無利子の金融を行うことで、村民を荒地地の開墾に専念させました。そして、農耕に精を出した人々を表彰し、その褒賞としてお米や金銭を授与することにより士気を高めたのです。さらに、蕨村の周辺などから多くの人を雇い入れるなど、人件費を中心に金70両（現在の1,000万円ほど）を仕法にかきました。

蕨村の人口は、最も多かった1730年頃には115人ほど（23軒）でしたが、報徳仕法が始まった頃は19軒で、荒地はおおよそ一町七反（約14,000㎡）に広がり、荒廃していました。

その甲斐あって、嘉永5年（1852年）から嘉永6年の2年間で、荒地地のほぼすべてを開墾することができました。



第25回全国報徳サミット筑西市大会

- ▶テーマ：「報徳仕法に学ぶ 心豊かでたくましく生きるひとづくり・まちづくり」
- ▶日時：11月9日（土）午前9時開場
午前9時30分開演
- ▶会場：明野公民館イル・ブリランテ
- ▶内容：報徳学習発表（五所小学校）、基調講演
パネルディスカッション、大会宣言決議など
- ▶参加費：無料



伝・蕨村報徳仕法穀物蔵
三宮尊徳が造った穀物蔵とされる。穀物の備蓄や炊き出しを行ったという。

市役所3階エスカレーター東側で「二宮金次郎像」が展示されています

全国報徳サミット筑西市大会を11月9日に開催するにあたり、市役所3階エスカレーター東側に「二宮金次郎像」を展示しています。この金次郎像は報徳サミット開催自治体で代々引き継がれているもので、今年3月に、前回大会開催市の小田原市から本市に引き継がれました。高さ58cmのブロンズ製で、学校などに建てられている石造のものとは一味違った重厚感が特徴です。

また、戦後すぐに使用された二宮尊徳が肖像の1円札や、勉学に励む二宮金次郎の姿が描かれたガラス絵なども展示しています。



一円札



ガラス絵



ブロンズ像